



## 第 14 回産業観光まちづくり大賞 受賞団体決定!!

全国産業観光推進協議会（事務局：東京都港区 会長：須田寛）・公益社団法人日本観光振興協会（本部：東京都港区 会長：山西健一郎）では、このほど、第 14 回産業観光まちづくり大賞の受賞団体として、下記のとおり金賞、経済産業大臣賞、観光庁長官賞など、計 7 団体を決定いたしました。本賞の概要、及び本年度受賞団体の概要につきましては、別紙をご覧ください。

### <第 14 回産業観光まちづくり大賞 受賞団体>

- 「金 賞」 こまつものづくり未来塾実行委員会・  
小松市 にぎわい交流部観光交流課 【石川県】
- 「経済産業大臣賞」 SUWA ブランド推進委員会・諏訪市産業連携推進室 【長野県】
- 「観光庁長官賞」 特定非営利活動法人コンソーシアム有松 【愛知県】
- 「銀 賞」 浜田市 【島根県】
- 「特 別 賞」 東京でホップを育てよう！プロジェクト協議会 【東京都】
- 「特 別 賞」 ProjectBoleeGa（プロジェクトボレーガ） 【広島県】
- 「奨 励 賞」 関の工場参観日実行委員会 【岐阜県】

#### 金賞

#### 経済産業大臣賞



SUWA プレミアム認定品の一つ  
「超高精度金属砂時計」



GEMBA モノづくリエキスポ見学風景

#### 観光庁長官賞



夕刻の灯りストリートの一風景

産業観光まちづくり大賞は、「産業観光（産業遺産や、現在稼働している工場・工房などを活用した観光）」による観光まちづくりを実践し、他の地域の模範となる優れた事例を表彰する制度で、平成 19 年度に創設されました。産業観光に取り組む地方公共団体、観光協会、商工会議所、NPO 法人、企業等を対象に、幅広く募集を行い、産業観光を通して地域振興に寄与しているか、受入側と訪問側に双方のメリットがあるビジネスモデルになっているかなどを主な評価の視点として審査を行いました。

## 第 14 回産業観光まちづくり大賞について

### 1. 概要

#### (1) 主催

全国産業観光推進協議会・公益社団法人日本観光振興協会

#### (2) 募集対象

産業観光に取り組んでいる地方公共団体、観光協会、商工会議所、NPO、商店街、企業・団体等

#### (3) 表彰内容

金賞、経済産業大臣賞、観光庁長官賞、銀賞（その他状況に応じ、特別賞、奨励賞等を設ける）

※金賞については、過去3年以内に同賞を受賞している団体は対象外とする。

※経済産業大臣賞および観光庁長官賞においては、過去にこれらの賞を受賞したことのある団体は同じ賞を受賞することはできない（既経済産業大臣賞受賞団体が観光庁長官賞を受賞、既観光庁長官賞受賞団体が経済産業大臣賞を受賞することは可能である）。

### 2. 評価の視点

＜評価点 各5点 計45点＞

- ①顧客サービスの独創性（顧客への提供手法の斬新さ・ユニークさ）
- ②対象資源の価値（対象とする資源の固有性・希少性など）
- ③編集視点（対象とする資源をストーリーとして提供しているか）

#### ※経済産業大臣賞選定ポイント

- ④事業性（収益が見込める事業として展開しているか）
- ⑤ビジネス創出（新たなビジネス機会の拡大が図られているか）

#### ※観光庁長官賞選定ポイント

- ⑥誘客力（産業観光の展開により、観光客の誘致に成果をあげているか）
- ⑦商品力（産業資源を素材とした商品造成により、観光客の誘致に成果をあげているか）
- ⑧国際性（国際的視点や外国人観光客の誘致に向けた取組が図られているか）
- ⑨連携（他地域や異業種との連携による広域的な産業観光の推進が図られているか）

### 3. 審査方法

- (1) 審査委員による事前審査（令和3年12月1日～12月27日）審査対象：全13応募団体
- (2) 審査委員会（令和4年1月11日）

### 4. 審査委員（順不同・敬称略）

役 職	所 属	職 名	氏 名
委員長	学校法人東洋大学	総長	福川 伸次
委員	学校法人國學院大學	教授	楓 千里
〃	公益財団法人日本交通公社	会長	末永 安生
〃	全国産業観光推進協議会・東海旅客鉄道株式会社	会長・顧問	須田 寛
〃	全国産業観光推進協議会	副会長	丁野 朗
〃	観光庁観光地域振興部観光資源課	課長	星 明彦
〃	経済産業省商務・サービスグループクールジャパン政策課	課長	俣野 敏道
〃	株式会社 玄	代表取締役	政所 利子
〃	学校法人松蔭学園松蔭大学	教授	鷺尾 裕子
〃	(公社)日本観光振興協会	理事長	久保田 穰

## 第13回産業観光まちづくり大賞受賞団体の取組概要及び評価のポイント

### 金賞

こまつものづくり未来塾実行委員会・小松市 にぎわい交流部観光交流課  
(石川県小松市)

「産業観光都市 小松」の魅力発信へ  
～GEMBA モノヅクリエキスポ・サロンで産業活性化！～

#### 【取組内容】

産業観光に長年精力的に取り組んできた小松市では、平成28年度に『珠玉と歩む物語』小松～時の流れの中で磨き上げた石の文化』で日本遺産に認定されたことを契機に、「こまつものづくり」に焦点をあてた産業観光事業をさらに拡充。令和2年には九谷焼関係事業者に特化したオープンファクトリー「GEMBA（原場：ものができる場所）プロジェクト」が立ち上がるが、九谷焼以外にも様々な産業が同市には根付いており、日本を代表する伝統工芸から世界シェアを誇る巨大メーカーまで多種多様な産業が集積し、絶やさずに伝統文化として生き残っているため、九谷焼産業以外の事業者も参画し、令和3年6月「こまつものづくり未来塾」として始動することとなった。また、小松市が観光でも稼ぐための新たなコンテンツとして、万全のコロナ対策を施した上で、リニューアルしたオープンファクトリーイベント「第1回 GEMBA モノヅクリエキスポ」を開催。金沢や加賀温泉にはない「産業観光都市 小松」をアピールすることで、地域一体となって「GEMBA」の魅力国内外に発信すべく取り組んでいる。

#### ■【産業観光イベント】GEMBA モノヅクリエキスポ

『GEMBA モノヅクリエキスポ』の体験プログラムでは、「ココにしかない、GEMBAの知恵や技術を魅せる唯一の日」をコンセプトに、多様な産業が集積する小松市内の様々な工場や工房の「見学」と実際に現場でプロの手解きを受けながら手を動かすことができるワークショップ型の「体験」を用意。日本を代表する伝統工芸から世界シェアを誇る巨大メーカーまで、多岐に渡るプログラムを提供する。今後は定期的な開催を予定している。

#### ■【こまつものづくり未来塾】GEMBA サロン

2カ月に1回程度を目安に、さまざまな分野の専門家の方をメンター（講師）に招き、ものづくり未来塾の参加メンバーが自社の技術を使って現在挑戦中の商品や今後挑戦したいことなどを討議する場。地元でものづくりをする人同士の業界を越えた繋がりやアイデアの源泉を紡ぎ出すことを目的としている。他業種の方とも意見を交わし、多種多様な目線からさらなるアイデアや今後の戦略について構想を深めることで、新たなビジネス創造への寄与にもなりうる。



GEMBA モノヅクリエキスポ体験



GEMBA サロン

## 【評価のポイント】

長年産業観光事業に取り組んできた実績、地域に根付いた様々な産業とそれらの連携、商品力に富んだ新たなプロジェクトの始動や人材育成等、あらゆる面が評価され、総合的に見て、他地域の模範となるすばらしい取組として金賞に選定された。

(審査委員からのコメント)

- ・産業観光への長年の取組が開花し、産業観光の全国モデルと位置づけられる。特に「こまつものづくり未来塾」は人材育成にも寄与し、新しい事業開発に繋がっている点も高く評価できる。
- ・地域ストーリーに加えて、個々の工場・工房（GEMBA）のストーリー編集が秀逸。次年度以降の継続的取組を通じて、恒常的な産業観光への展開が期待できる。
- ・小松市の立地条件、産業構造を的確に踏まえた企画。継続性、新しいビジネス性にも富む。特に日本遺産のストーリーとの連携など、他の地域にも参考になる取組。
- ・オンリーワンの工業製品の集積に加えて、周辺の観光資源は豊富である。今後も一大イベントのモノヅクリイベント等のキラーコンテンツは誘客力を増していくことが予想される。

### 【取組内容】



プレミアムショップ旗艦店内（ガラスの里）

諏訪市はかつて「東洋のスイス」と呼ばれ、古くから精密機械工業の集積地として発展してきた。その中核を担うのは、部品加工を中心とする下請けの中小企業であるが、新しい技術や進取の精神で事業にあたってきた伝統を有し、部品加工に留まることなく自社ブランド商品を開発する意欲のある企業も多いのが特徴である。そこで、戦後からの技術や情熱を受け継ぐ作り手（製造事業者）と、新たな作り手であるクリエイター・

デザイナー、売り手などの多様な職種の人々が集まり、官民連携の「SUWAブランド推進委員会」を設置し、新しい地域ブランドである「SUWAプレミアム」を立ち上げるに至った。諏訪地域で開発、製造、制作された商品に対してブランド認定を行う制度を設け、各種専門家で構成されたブランド推進委員会によって審査が行われる。令和3年4月現在、認定事業者は45者、認定品は延べ93品目に達している。

長野県内有数の観光地であり、「SUWAプレミアム」の旗艦店が所在するSUWAガラスの里は、年間40万人の観光客が訪れるスポットだったが、令和2年のコロナ禍により長期の休業も余儀なくされるなど「SUWAプレミアム」の売り上げ減少の大きな要因となった。そこで、これまでも対応していたネット販売やEコマースに一層の力点を置き、ホームページのリニューアルやPR動画の作成、さらにターゲットを効果的に絞ったネット広告を活用して発信したところ、年間ベースの実績では過去最高の売上額を記録するに至った。

### 【評価のポイント】

地域特有の高い技術力を生かし、官民連携して「SUWAプレミアム」のブランド構築に取り組み、商品の販売実績や、旗艦店への観光客集客など、ビジネスとして確かな実績を残していることが評価され、経済産業大臣賞に選定された。

（審査員からのコメント）

- ・既に7年間にわたるSUWAブランドと産業観光への地道な取組が大きな成果に繋がっている。特に、クリエイター・デザイナー、売り手など多様な職種の集まりである「ブランド推進委員会」の取組が秀逸。SUWAプレミアムの旗艦店の集客力、諏訪湖サービスエリアでの商品展開なども素晴らしい。
- ・ネット販売やふるさと納税返礼品と連動した結果、コロナ禍であるにも関わらず過去最高額の売上となるなど、環境変化に対応しリアル・オンライン双方で工夫しながら取り組んでいる点が評価できる。また、ワーケーションを行う者へのモニターツアーを実施するなど、新たなビジネス機会・関係性の発掘にも期待が持てる。



ワーケーションモニターツアーでの  
プレミアム品紹介風景  
（果汁搾り機「カジュッタ」）

【取組内容】



絞り染体験

有松は、平成 28 年に「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されて、令和元年に、「日本遺産」に認定された。その有松地内で、愛知県の伝統産業である有松絞と三州鬼瓦のコラボレーション事業を実施し、東海道沿いの古い町並みから発信することで、伝統産業文化を通して人々の交流を深めたいと考え、本プロジェクトを始動した。また、観光交流により、相互の伝統産業および地域の活性化を図り、その有意義性を有松から世界に発信することも目指している。

具体的な企画内容は、有松の東海道沿いの古い町並みに「絞と瓦による灯のオブジェ」を設置し、普段はほとんど人通りのない夜の町並みを散策していただく全 100 日間のプログラムである。地元スタッフと旅行会社の共同で、「絞教室」や「瓦教室」を含む 3 つの有料体験プランも設定し、旅行商品の造成にも取り組んだ。

有松地区の東海道沿道では、今も卯建を設けた和瓦の屋根、塗籠造、虫籠窓といった江戸時代の面影を残す伝統的建造物群がまちなみを形成している。尾張藩が有松絞りを藩の特産品として保護し、竹田庄九郎を御用商人に取り立てたことから始まり、絞の一大産業地として栄えた。しかし、江戸の大火 (1784 年) で町はほとんどが焼失し、復興の際に多くの建造物が三州瓦屋根で覆われた。それ以来、有松にとって「絞」と町を守ってきた「瓦」は欠かせない存在となった。今回の企画では、この 2 つの伝統産業を組み合わせ、新たな息吹をもたらした。今後も新しいコラボレーションにより生まれる、これまでにない発想により、相互の伝統産業の新しいカタチを見出していく。

【評価のポイント】

「絞」と「瓦」の組み合わせにより、伝統産業の新たな活用に取り組んでいる点や、歴史的背景を組み込んで、ストーリー性を持たせている点が評価された。また、地元スタッフと旅行会社の共同作業により、今回の企画に取り組んでいることもポイントとなり、観光庁長官賞に選定された。

(審査員からのコメント)

- ・「有松絞」と「三州鬼瓦」のコラボレーション事業を、卯建、塗籠、虫籠窓といった江戸時代の面影ある町並みでの行うという、いくつもの産業観光の魅力が多層的に結びついている点を評価。100 日間の開催、文化財での食事等を組み込んだツアーなど、有松の歴史暮らしを体感できるプランは、滞在時間につながっていてよいと思う。
- ・「絞」と「瓦」のストーリー性を活かし、400 年の歴史の中でも著名なデザイナーとのコラボなど伝統産業の新たな活用方法に取り組む姿勢は評価できる。また、国内観光客だけでなく、コロナ後には訪日外国人観光客の誘客にも期待が持てる。



灯りストリート (西町)

## 【取組内容】



神楽面彩色の様子

昭和 45 年開催の大阪万博を契機に、島根県西部で盛んな郷土芸能「石見神楽」への注目が飛躍的にあがった。表情豊かな「和紙面」、絢爛豪華な「神楽衣裳」、そして説得力抜群の「蛇胴」。島根県浜田市で生まれ、現在に至るまでこの地の産業として根を張る「神楽産業」を地域の宝とし、訪れる人を喜ばせたいという発想を原点に、産業観光の取組が始まった。

具体的な取組としては、面、衣裳、蛇胴それぞれの工房で見学を受け入れている他、障がいを持つ方が担い手となっている福祉法人では、「神楽ショップくわの木」において、温泉施設に隣接して見学可能な工房を開設し、即売にも対応して、産業の魅力発信に力を入れている。また、観光協会の専門サイトでは、工房を紹介する特集ページを充実させ、アクセスの簡略化を図っている。

さらに、平成 20 年に開館した石州和紙会館では、独自に取組を進めており、店頭販売はもちろんのこと、和紙漉き体験の他、製紙技術をブータン王国に伝えるなど、幅広い取組を行っている。そして、石見神楽を語る上で外せない「石州和紙」の堅牢さと歴史を、浜田市では内外に PR している。

経年劣化により払い下げられた蛇胴は、その強靱さと貴重性を活かし、トートバッグや名刺への再利用が図られており、ふるさと寄付の返礼品に追加されるなど、新たな活用方法も見出されている。

## 【評価のポイント】

神楽というとその演舞が注目されがちであるが、それを支える石州和紙などの伝統工芸にも焦点を当て、観光コンテンツを作り上げている点が評価された。神楽や伝統工芸等、対象となっている観光資源の高い魅力もあり、銀賞に選定された。

（審査員からのコメント）

- ・石見神楽を支える石州和紙と技術のストーリーがとても優れている。また、石州半紙などの応用技術の可能性開発も素晴らしい。地域の伝統芸能と伝統工芸の卓越したコラボレーション例としても高く評価。
- ・郷土芸能「石見神楽」の上演部分だけでなく、衣裳等から、上演後の再利用までうまく活用しており、観光資源として魅力を感じる。北前船やたたらなど人の交流や商いと神楽との結びつき、自然環境や生活文化との関連などより深いストーリーの発信、オンラインイベントや動画配信の強化、高質な滞在環境やその他の地域アクティビティとの連携発信など行えば、海外のファンづくり、遠方からの長期滞在などを誘発する可能性がある。



手漉き和紙体験

## 特別賞

# 東京でホップを育てよう！プロジェクト協議会（東京都） みんなでホップを育て、オリジナルビールでカンパイ！ 都市農業の推進から商業振興・地域活性化！

### 【取組内容】



ホップ収穫体験

平成30年に武蔵野市初となるビール醸造所「26Kブルワリー」が誕生したことをきっかけに、武蔵野市観光機構が地域産品開発といった観点から「市内で採れたホップを使ったオリジナルビール製造」事業を検討。武蔵野市で都市農業に携わる農家の方々の協力により、ホップ育成事業が開始され、本プロジェクトの発足に至った。

「東京でホップを育てよう！プロジェクト協議会」は、令和2年2月に発足した任意団体で、一般社団法人武蔵野市観光機構、株式会社スイベルアンドノット、株式会社けやき出版が中心となり、地域農家の協力のもと事業をスタートさせた。①ホップ栽培を通じて、都市型農業の活用を促進する。②ホップ収穫・ビール醸造を着地型体験活動とすることで、多くの方に地域の魅力をPRする。③オリジナルビールを地域産品として流通させ、飲食店をはじめとした地域商店の活性化につなげる。この3つを目標に掲げ、地元産ホップ栽培をイベント化し、オリジナルビール製造を通じた地域活性化に取り組んでいる。取組2年目である令和3年には武蔵野市内3か所に増床してホップの栽培を実施するなど、取組の幅も広がっている。今後は、飲食店にも卸を行い、地域商店にも利益が発生するモデルを目指す。また、ホップ栽培・ビール製造以外にも、イベントの実施など、「コト・モノ」の両面から収益化・事業継続を目指していく。

### 【評価のポイント】

都市型農業、さらに最近人気の高いクラフトビールに関する取組ということで審査員の注目を集めた。ホップの育成からクラフトビール醸造までの観光コンテンツ化や、地域内の飲食店との連携が評価された。コロナ禍での実施開始ということもあり、実績の評価が困難であるが、今後の展開に期待し、特別賞に選定された。

（審査員からのコメント）

- ・都市部でのビール麦やホップの栽培を、単なる産業創造ではなく、体験を通じた観光交流、地域商業施設等と連携した観光まちづくりや地域ブランドとして展開する手法は、産業観光の新たな可能性を拓くものとして大いに注目される。また後継者不足からくる耕作放棄地対策という地域課題解決にもつながる点が優れている。
- ・都市型農業のモデルケースとしても、明確な戦略がある。周辺地域・商店街との連携に加えて、産業連携の実績も重ねてネットワークを構築されている点を評価したい。
- ・全国でクラフトビール造りが盛んになっているが、ワインと違い地場産ホップでの生産は希少で物語性がある。適正な事業規模の拡大による安定した事業運営を期待したい。



完成したクラフトビール



## 特別賞

ProjectBoleeGa (プロジェクトボレーガ) (広島県)  
Mannufacture Tourism® (マニファクチュア ツーリズム)

### 【取組内容】



ファクトリーツアーの様子

本プロジェクトメンバーの橋氏が代表を務めるインド料理専門店(福山市)には、年間を通して数千人のインドからの観光のお客様が訪れていたが、食事の後は他地域へ行ってしまいうのが常であった。福山市を目的地として来てもらうにはどうしたらいいか、という思考を発端に、「福山にしかないもの、福山でしかできないことは何か??」を考えたときに、真っ先に浮かんだのが「デニム」であった。その福山市が世界に誇るデニムを観光コンテンツにするという発想から生まれたのが「Manufacture Tourism®」、Project BoleeGa(プロジェクトボレーガ)である。

具体的には、福山市に滞在しながらお客様のご希望通りのデニムウェアをフルオーダーで製作するという企画である。製作に当たるのは世界のトップブランドに携わる染色屋さん、生地屋さん、縫製会社等、最高レベルの職人たちである。単に世界レベルのものが作れるというだけではなく、その製造工程を全て見える化し、プライベートファクトリーツアーを実施する。製作にかかる工程を説明する過程での「見学」と、実際のオーダー過程での様々な「選択」に加え、ご自身が製作に参加する「体験」のパートも用意。さらに、原綿の選定から選べる特別プランを用意するなど他のオーダーメイド以上の選択肢を提供している。更に通常のデニム製造には関わることが無い伝統工芸や異業種とのコラボも積極的に行っており、地元の宝を紹介するプランにもなっている。福山市には繊維業、縫製業に関わる備後絣からの400年の歴史があり、デニム製造に関わるすべての工程が狭い範囲に集積している日本で唯一の地域である。その特性を生かし、お創りした製品には「生涯保証」という、その一着を着用される限りメンテナンスをするという保証もお付けする。価格は100万円(税金、旅費別)と高額だが、継承問題や産業の衰退等、地域や業界が持つ問題解決の一糸を担えればという願いが込められている。

### 【評価のポイント】

1軒のインド料理店から始まったプロジェクトであることは特筆すべき点である。また、「デニム」を観光資源とするアイデアの意外性も評価された。まだ取組が始まったばかりであるが、更なるブランディングや他の観光コンテンツとの連携等、今後の展開に期待し、特別賞に選定された。

(審査員からのコメント)

- ・備後絣の伝統という地域特性や技術とデニムの新しい出会いの中から、ジャパニデニムの最高級品をめざす試みが誠に素晴らしい。特に異業種協業(真田紐・金欄など)や職人と顧客が作る新しい価値創造、不要デニムの多分野での応用などの発想は、これまでのものづくりには見られないこだわりである。
- ・「その地域にしかないもの」「その地域でしかできないもの」というところからの発想が素晴らしい。まだまだこれから広げて行かなければいけないが応援したくなる取組である。



真田紐をあしらったデニム

【取組内容】



ワークショップ

関市は日本一の刃物の産地として知られ、近年は自動車、医療、精密機械などに関わる様々な職人技を有する企業が集まる「ものづくりのまち」として発展してきた。しかし、若者の市内企業や地場産業への関心は低く、従業員の高齢化、職人の後継者不足、技術の継承が深刻な地域課題となっている。そこで、関市の誇る事業所の高い技術力や高品質な製品を、市民をはじめ多くの人々に直に体感していただき、個性

関市は日本一の刃物の産地として知られ、近年は自動車、医療、精密機械などに関わる様々な職人技を有する企業が集まる「ものづくりのまち」として発展してきた。しかし、若者の市内企業や地場産業への関心は低く、従業員の高齢化、職人の後継者不足、技術の継承が深刻な地域課題となっている。そこで、関市の誇る事業所の高い技術力や高品質な製品を、市民をはじめ多くの人々に直に体感していただき、個性

的な経営者や職人と接しながら製品の知識を深めることで、地元企業の魅力を再認識してもらい、まちに誇りや愛着を持つ心を育む機会をつくりたいと考えた。そうした思いから生まれたのが「関の工場参観日」である。

取組開始は平成 26 年。それ以後、年に 1 回、市内企業が工場を一般の方に公開するイベント「関の工場参観日」を開催している。主なコンテンツは以下のとおり。

- ・工場見学：工場の職人やスタッフの案内で、ものづくりの現場を見学
- ・ワークショップ：参加企業によるワークショップで実際にものづくりを体験
- ・SEKI SELECT STORE：参加企業の商品や工場の廃材など「関のいいもの」を集めた限定ストア
- ・トークイベント：ゲストとものづくりや地場産業について一緒に考えるトーク企画

開催回数を重ねるごとに来場者数が増え、会期以外にも「見学できる工場を紹介してほしい」という問い合わせがあることから、「ものづくりのまち関市」のブランド化、認知度向上に一定程度成果が出てきている。現在は製造業を中心に取組を行っているが、今後は他の産業（サービス業、小売業、宿泊業など）と連携し、地域全体が盛り上がる取組へと進化させたい。また、産業観光が市内企業の活性化、将来の働き手の確保につながることを期待している。

【評価のポイント】

回を重ねるごとに、規模が拡大し、来場者も増加している点や、コロナ禍にも対応し、オンラインを活用した取組を行っている点が評価された。地場産業である「刃物」だけでなく、他産業や、地域全体への広がりを期待して、奨励賞に選定された。

(審査員からのコメント)

- ・すでに事業開始から 8 年を経過し、「関の工場参観日」は産業観光の代表事例の一つになっている。年々参加企業やワークショップの規模も拡大し、順調な発展を遂げているのは誠に立派。セレクトストアでの売上、関連産業との連携はまだまだこれからではあるが、今後の展開が期待できる。
- ・産業集積地として多様なコンテンツが揃っており、様々な展開が今後も期待出来る。また、コロナ禍の経験を活かして、ライブ配信等の発信を充実させることにより、地域経済への貢献度は成長が見込まれる。
- ・今後他産業、地域全体を巻き込んだ取組への進化を期待したい。



SEKI SELECT STORE

## <参考 過去の受賞団体一覧>

※団体名はそれぞれ受賞当時のもの

### ●第1回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成19年度）

- 金賞 財団法人名古屋観光コンベンションビューロー（愛知県）
- 銀賞 釧路市（北海道）
- 特別賞 宇部・美祢・山陽小野田産業観光推進協議会（山口県）

### ●第2回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成20年度）

- 金賞 財団法人浜松観光コンベンションビューロー（静岡県）
- 銀賞 川崎産業観光振興協議会（神奈川県）  
NPO法人いくのライブミュージアム（兵庫県）
- 特別賞 栗原市（宮城県）

### ●第3回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成21年度）

- 金賞 北九州市（福岡県）
- 銀賞 函館市（北海道）  
益子アートウォーク実行委員会（栃木県）
- 特別賞 横須賀市・横須賀集客促進実行委員会・株式会社トライアングル（神奈川県）  
YKK株式会社・黒部市（富山県）

### ●第4回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成22年度）

- 金賞 桐生市（群馬県）
- 銀賞 大垣商工会議所（岐阜県）
- 奨励賞 昭島市（東京都）  
社団法人真庭観光連盟（岡山県）

### ●第5回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成23年度）

- 金賞 姫路市（兵庫県）
- 銀賞 会津若松商工会議所（福島県）
- 特別賞 岡谷市・岡谷商工会議所・岡谷市観光協会（長野県）
- 奨励賞 丹後ええもん工房（京都府）

●第6回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成24年度）

- 金賞 酒田市・一般社団法人酒田観光物産協会・酒田商工会議所  
（山形県）
- 銀賞 天草市（熊本県）
- 特別賞 みたけ華ずしの会（岐阜県）

●第7回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成25年度）

- 金賞 おおたオープンファクトリー実行委員会（東京都）
- 銀賞 室蘭観光推進連絡会議（北海道）  
宇部・美祢・山陽小野田産業観光推進協議会（山口県）
- 特別賞 秋田内陸縦貫鉄道株式会社（秋田県）  
静岡商工会議所（静岡県）

●第8回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成26年度）

- 金賞 北九州産業観光センター（福岡県）
- 経済産業大臣賞 燕三条プライドプロジェクト・「燕三条 工場の祭典」実行委員会（新潟県）
- 観光庁長官賞 小岩井農牧株式会社 小岩井農場（岩手県）
- 銀賞 小樽産業観光推進協議会（北海道）  
小松市（石川県）
- 特別賞 小坂町（秋田県）  
鶴岡織物工業協同組合（山形県）

●第9回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成27年度）

- 金賞 知多半島観光圏協議会（愛知県）
- 経済産業大臣賞 新居浜市（愛媛県）
- 観光庁長官賞 三条市（新潟県）
- 銀賞 北海道鉄道観光資源研究会（北海道）
- 奨励賞 生野まちづくり工房井筒屋運営委員会（兵庫県）

●第10回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成28年度）

金賞 NPO 法人神岡・町づくりネットワーク（岐阜県）

経済産業大臣賞

すみだ地域ブランド推進協議会／墨田区産業観光部産業経済課（東京都）

観光庁長官賞 一般社団法人舞鶴観光協会（京都府）

銀賞 呉市（広島県）

特別賞 八戸まちづくり文化スポーツ観光部観光課（青森県）

奨励賞 加古川市（兵庫県）

●第11回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成29年度）

金賞 桑名市産業観光まちづくり協議会／エイベックス株式会社  
（三重県）

経済産業大臣賞 大阪糖菓株式会社（コンペイトウ王国）（大阪府）

観光庁長官賞 田舎館村むらおこし推進協議会（青森県）

銀賞 一般社団法人 岩見沢市観光協会（北海道）

●第12回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成30年度）

金賞 有限会社 兵吉屋（三重県）

経済産業大臣賞 株式会社 梅守本店（奈良県）

観光庁長官賞 益子町観光協会（栃木県）

銀賞 富士吉田市（山梨県）

特別賞 一般社団法人 那覇市観光協会（沖縄県）

●第13回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（令和元年度）

金賞 広田湾遊漁船組合（広田湾漁業協同組合）（岩手県）

経済産業大臣賞 株式会社 能作（富山県）

観光庁長官賞 志摩市（三重県）

銀賞 オタフクソース株式会社 Wood Egg お好み焼館（広島県）

奨励賞 武蔵野市・一般社団法人 武蔵野市観光機構（東京都）